

## トウガラシのカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	なるべく早く(定植1カ月前迄)、右記の資材を同時に投入し、なるべく深く耕して、土層全体を均一にしておきます。 ※畑全体の深い地力で、深根を張らせることが大事です。ウネ上だけの施肥は根を狭めますので、よくありません。	<b>ラクト・バチルス 600g</b> … 排水よく、肥沃な土に <b>堆厩肥 2トン</b> (なるべく多く) <b>硫安 80kg</b> (N:16kg) ※定植時には <b>土壌EC:0.2程度</b> と落ち着いていること。 ※土層全体が(深くまで) <b>土壌pH:6.0~6.5</b> となるように、もし土が酸性(pH:6.0以下)の場合は、この時にも <b>畑のカルシウム 60kg</b> 程を投入します。 ※地力作りがしっかりと出来る圃場では、トウガラシは何年でも連作しています。
整地・ウネ立て時	雨後(または灌水後)、全面に散布して <b>整地・ウネ立て</b> 。 なるべく全面に散布。	<b>畑のカルシウム 80kg</b> … 健全化、花実の促進
(4月) 育苗	播種後2週間、本葉2枚が揃って展開を始めたらポットに移植(鉢上げ)します。この鉢土と、移植後、定期的に濃縮酵素液で根を強くし、また、 <b>その間(交互に)</b> Ca液で厚く締め、健苗を作ります。 ※水をやりすぎて徒長させないように注意。	※育苗用土には 畑のカルシウムを 立米当10kg混和。 <b>濃縮酵素液</b> (最初1000倍) あと <b>500倍</b> ※鉢上げ前日、鉢土を酵素入りでタップリ湿らせます。 ※以後、1週間おきに 葉上から鉢土までタップリと散布。 <b>カルテック Ca 液状</b> (最初1000倍) あと <b>500倍</b> ※酵素液の4日後くらいに 葉上からタップリ散布します。 ※定植5日前に散布して、苗を充実させます。
(5月上旬) 定植時	定植前日に 苗にタップリ灌水、または 定植時ドブ漬け、定植後の手灌水に酵素液を使用。	<b>濃縮酵素液 500倍</b> … 根張り・活着・生長促進。
(~6月) 定植後 1か月間	根張りとしをを促進します ※明らかに <b>肥切れ</b> の場合以外は、 <b>肥料をやらす、根の力で生長を進めます。</b>	<b>濃縮酵素液 500倍</b> … 根張りとしをを促進。
(7月~ 8月前半) 開花・ 着果期	花と着果の栄養補給 ※特に <b>徒長</b> や <b>チツツ過多</b> の場合は <b>繰り返し2回</b> 。 <b>確実に着果させ、成熟させます。</b>	<b>カルテック Ca 液状 500倍</b> … 花と着果の栄養補給。 ★もし、元のカルシウムが不足なら、 <b>畑のカルシウム</b> を追肥
(8~9月) 収穫1カ月前 【乾果収穫】	開花後1カ月前(赤熟1カ月前)にカルシウムで成熟促進【 <b>仕上げ</b> 】 ※カルシウムで、乾燥後の歩留りと上物率がきわめて良くなります。	<b>カルテック Ca 液状 500倍</b> … 揃って着色・成熟させる。
途中で 土壌pHとECをチェック		※「 <b>葉トウガラシ</b> 」の場合、上記の開花・着果時期のCa散布によって、葉の厚み・重量も充実します。
(7月~9月) 青果用の 収穫期	右記2種の葉面散布(または灌水)を、 <b>適宜(交互に)</b> 行って、生長をコントロールします	<b>濃縮酵素液 500倍</b> … 根を強く、生長促進 <b>カルテック Ca 液状 500倍</b> … 成熟を促進

品種：鷹の爪、八房

(上記はピーマン類のうち辛味の強い小果のものの栽培例です。シントウや大果のものは別表を参照)